

様式3

平成18年度 傾斜的研究費(特定)(全学分)(戦略分・公募分)研究報告書

研究テーマ区分 [①都市形成に関わる研究 ②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究]

研究課題名	「障害をもつ学生」の教育支援プログラム開発及びその実施体制に関する研究	
研究者または研究代表者名	所属部局名	職位
石原邦雄	都市教養学部人文・社会系	教授
研究分担者名	部局名・所属研究機関名	職位
岡田英己子	都市教養学部人文・社会系	教授
副田あけみ	都市教養学部人文・社会系	教授
岡部卓	都市教養学部人文・社会系	教授
矢嶋里絵	都市教養学部人文・社会系	助教授
稲葉昭英	都市教養学部人文・社会系	助教授
和気純子	都市教養学部人文・社会系	助教授
山森亮	都市教養学部人文・社会系	講師
榎野葉月	都市教養学部人文・社会系	助手
研究実績の概要 (600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)		
<p>まず、障がいのある学生に対する支援の沿革と現状・課題を、先行文献や調査等から明らかにした。</p> <p>つぎに、とくに身体に障がいのある学生の教育支援について、①学生調査、②他大学調査、③海外調査を行った。①では、本学に在籍する障がいのある学生の現状とかれらの要望をヒアリング調査によって把握し、現行支援体制の内容と問題点を明らかにした。②では、すでに先駆的支援を行っている国内の他大学の制度や現状を、資料収集やヒアリング調査によって明らかにし、その結果を体系的に整理・分析した。③では、アメリカのカリフォルニアパークレー校を訪問し、世界的に注目されている学生支援の特性をヒアリングをもとに把握し、課題を考察した。</p> <p>さいごに、以上の文献研究および調査等をふまえ、本学における「障がいのある学生」の教育支援プログラム開発および実施体制構築に際して重要であると考えられる点(①支援理念についての合意形成、②規程の作成、③合議機関・実務機関・苦情処理機関・懇談会の設置、④学内各組織の連携、⑤予算の確保、⑥障がいのある学生との協議、⑦障がいのある学生への情報提供、相談、⑧環境設備の改善、⑨教材のバリアフリー化、⑩有償ボランティアの確保と資質の向上、⑪教職員への連絡・相談・援助、⑫福祉機器の活用と情報収集、⑬図書館・学生食堂における配慮、⑭支援についての広報・啓発、⑮地域の理解と協力)を提言した。</p> <p>なお、本研究の成果は報告書として2007年3月に公刊する他、学内で報告会を開催する予定である。これは、全学的な教職員の協力の下で、有効かつ適切な教育支援の実現をめざすものである。</p>		

様式3

研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]			
著者 (講演者)	論文題目 (発表題目)	発表誌 (発表大会名)	年月
石原邦雄他	「障がいのある学生」の教育支援プログラムの開発及びその実施体制に関する研究報告書		2007. 3
稲葉昭英	ソーシャルサポート研究から何が言えるのか	福祉社会学会第4回大会シンポジウム	2006
矢嶋里絵	障がいのある人と社会保障	井上英夫、高野範城編『実務社会保障法講義』民事法研究会	2007. 4
岡部卓	生活保護における相談援助	社会福祉士養成講座編集委員会『公的扶助論』中央法規出版	2007, 1
岡部卓	公的扶助の歴史、自立支援プログラムをとおして行う支援活動の実際、資料編	根本義昭・岡部卓編『公的扶助論』全国社会福祉協議会	2007. 2
岡部卓	はしがき、公的扶助の前提としての資力調査・所得調査、公的扶助と援助方法、福祉事務所の業務と組織、生活保護基準、わが国における公的扶助の歴史	岩田正美・岡部卓・杉村宏編『公的扶助論』ミネルヴァ書房	2007. 2
岡部卓	貧困・低所得層の福祉ニーズ	古川孝順・蟻塚昌克編『社会福祉概論』全国社会福祉協議会	2007. 2
岡部卓	求められる新たな「セーフティネット」—生活保護制度を中心に	月刊『ガバナンス』ぎょうせいN0.66	2006.10
岡部卓他	生活保護における相談援助過程の評価に向けて	『賃金と社会保障』1431巻12月上旬号	2006. 12